

東京府北多摩郡三鷹村櫟毛蟲被害調査報告

稻 村 時 衛

本報告ハ明治三十八年九月東京府ノ照會ニ應シ同地方ニ於テ實地調査ヲ爲シタルモノナリ

一、被害林ノ模様 最初殘酷ノ被害アリシハ東京府下北多摩郡三鷹村大字大澤村ニ於ケル櫟林ニシテ其面積約六反餘アリ該林ハ六尺ニ七尺ノ距離ニ規則正シク植樹シタルモノニテ林齡十一年現時平均胸高直徑三寸高サ四間アリ林内ニハ萱及ヒ雜草等繁茂セリ

八月上旬迄ニハ前記櫟林ニ於テ每樹ニ約百五十頭以上モ群集セシカ食ス可キ葉ノ缺乏ト共ニ次第ニ四方ニ散亂シテ多クハ林ノ外縁ヲ傳ヒテ他林ニ及ビ約五町餘ノ面積ニ蔓延セリ而シテ其鬱閉セル林ノ外縁ノミニ傳フテ食害スルノ奇觀ヲ呈セシハ該蟲ハ強キ蒸熱ヲ忌ミ好ンテ風通ノ良キ所ニ生活スルモノ、如シ

最初ニ櫟林ノ葉ヲ殆ンド食ヒ盡シテ恰モ冬期ノ狀態ノ如クナラシメ次ニ、グリ、ナラ、カシ、等ノ如キ總テノ殼斗科ノ植物ヲ食害セリ同地方ニハ毎戸其周圍ニ園藝的栗林ヲ造成セルガ是等ハ勿論此他白樫ノ生垣ヲモ食害シ終ニ人家ニ入りテ結繭スルニ至リシヲ以テ同地人ヲシテ甚タ恐ルヘキ害虫ナルコトヲ自覺セシメタリ人若シ此毛虫ニ觸ル、時ハ劇シキ苦痛ヲ感ジ強壯ノ男子ト雖モ數日間ニ亘リ或ハ製絲女工等ノ如キハ二三日間休業ヲナセルモノアリ小兒ノ如キハ十日餘モ苦痛ヲ感シタルモノアリ田舎ノ風習トシテ同地方ノ人ハ往々洗足ナリシモ之カ爲メ其後ハ大人小兒ノ別ナク外出ニハ必ス皆草履等ヲ用フルニ至レリト

二、從來ノ被害 該地方ニハ從前今回ノ如キ慘害ヲ見シコトナク且ツ亦該蟲ニハ未タ注意セサリシト稱セリ然レトモ該被害林ヨリ十數間ヲ距テタル農民ノ談ニヨレハ明治三十六年度ニ始メテ之レヲ發見

シ越テ三十七年ニハ櫟林ニ所々散在スルコトヲ確ニ認メタリト且ツ又今回調査ノ際ニモ畠地或ハ林地ノ畦等ノ乾燥セル場所並ニ林内ニ於テ確ニ昨年度ノ繭ヲ或ハ樹幹ニ附着セル卵ヲ發見セリ是ニ因リテ見レハ此ノ毛蟲ハ先年ヨリ已ニ發生セルモノノ如シ然レトモ其附近ニハ此ノ如キ櫟ノ單純林ナク又本被害林ノ如ク下枝ヲ採集セラレ彼等ノ棲息ニ適當ナル林ナキ爲メカ之カ形跡ヲ認メサリキ近時同地方ニ於テハ薪炭林トシテハ主ニ櫟林ヲ仕立ツル故ニ至ル所櫟ノ新植或ハ更新林存スルモ該毛蟲ノ被害ヲ認メス勿論當地近邊ノ林ニハ被害林ノ如キ年齡及ヒ取扱ニ於テ彼等ノ生活ニ適セル林ハナカシカ如シ

三、被害樹本年ノ生長有様 被害林ハ八月上旬乃至中旬ニハ殆ント葉ヲ失ヒタレハ其生長ノ如何ヲ見シカ爲ニ伐採シテ其下部ノ年輪ヲ數ヘシニ八個アリテ其直徑生長ハ次ノ如シ

年	度	初	年	二	年	三	年	四	年	五	年	六	年	七	年	本	年
每年半徑生長	一分三厘	二	分	二分一厘	一分六厘	二分二厘	一分五厘	一分二厘	二	厘							

即チ本年ハ只ニ二厘ノ半徑生長アリシノミ

四、本年發生以降驅除ノ有様 本年六月ヨリ該林ニ無數ノ毛蟲ノ發生セルヲ見タルモ斯ル大害ヲナサントハ何人モ考ヘスシテ何等ノ驅除ヲナサ、リシカ前記ノ被害アリテヨリ始メテ之カ驅除ノ方法ヲ講セントセリ當時八月下旬ニシテ已ニ毛蟲ノ大部ハ櫟ノ葉ヲ食ヒ盡シテ其根株ニ近キ樹幹ノ地上ヨリ四五尺ノ間ニ群集シテ將ニ繭ヲ作ラントスルアリ或ハ他林ニ移轉スルアリ或ハ一部ハ既ニ散亂シテ結繭シツ、アリシト云フ故ニ此ノ際ニ於テ之ヲ殺セハ甚タ容易ナリシニ己人ノ利害關係上之カ驅除ヲナサス遂ニ結繭セシムルニ至レリ後九月上旬調査ノ際ニハ是等ノ群棲ヲ認メス只所々稀ニ一二頭ノ毛蟲ヲ發見スルノミニシテ其多クハ各所好ム所ニ結繭セリ是故ニ若シ八月下旬ニ於テ驅除センニ

ハ容易ニシテ且後來ニ對シテ亦甚タ有效ナリシモ空シク好機ヲ失セルハ甚タ遺憾ナリキ

本害蟲ノ形狀并ニ習性 (第一版)

標毛蟲學名 *Oecna excellens*, But

(一) 成蟲 黃褐色ノ蛾ニシテ一見ツガ毛蟲狀ノ斑紋アリ雄ハ體長一寸翅ノ開張二寸アリテ飛行力稍強シ日中ハ雜草中ニ隠レ日沒ヨリ出ツ雌ハ體長一寸五分翅ノ開張二寸七分アリ全體ニ黃褐色ノ毛ヲ被リ日中ハ櫟樹ノ北面及ヒ雜草中ニ靜止シ日沒ト共ニ飛行ス中ニハ九月下旬蛹ヨリ蛾トナルモノアルモ多クハ十月上旬ヨリ十月下旬ニ於テ成蛹トナリ燈光ニ群集ス

(二) 卵 直徑二厘五毛アリ卵ハ樹幹ノ凹所枝ノ下傍等ニ在リ一雌ニシテ凡ソ三百粒餘ノ產卵ヲナスモノアリ

(三) 幼蟲ハ五月中旬ヨリ孵化ス四回脫皮後即チ五齡ニハ其形最大トナル即チ八月中旬ニハ約四寸以上ニ達シ夫ヨリ老成スルト共ニ稍縮少シ毛モ減少ス口器ハ家蠶ト等シク葉ヲ食フニ適セリ體ハ松毛蟲ツガ毛蟲ニ能ク似タリ其第一節ニハ數條ノ桃紅色ノ線アリ其兩側氣門ノ前部ニハ二ツノ凸起セル各部ヨリ長キ束毛前方ニ向テ簇生シテ以テ頭部ヲ保護シ其脊上ニモ灰褐色ノ毛ヲ生セリ第二節及ヒ第三節ハ亦同様ニテ其兩側ノ凸起部ヨリ第一節ト等シク他ニ比シテ二束ノ長毛ヲ生ス其脊上ノ毛モ他節ヨリ長クシテ以テ胸部ヲ保護ス第四節ヨリ第十一節迄ノ關節ノ界部ハ褐色ヲ含メル眞黑色ニシテ脊上ニハ灰褐毛アリ其ノ兩側ニハ黑藍色ヲ呈セル短毛密生シ其兩側ノ二ツノ凸起ヨリ兩側ニ向テ毛ヲ生ス各節ニ毛ヲ生セサル處ナシ尾節ハ紅褐色ニシテ微毛アリ幼蟲ヲ傷クル時ハ青色ノ液ヲ出ス幼蟲ノ常性 其性夜盜蟲等ノ如ク常ニ日光ヲ避クルカ故ニ日中ハ陰ヲ好ンテ棲息シテ運動セサルモ午後四時頃ヨリハ上部ノ枝端ニ至リテ盛ニ蠶食シテ翌朝ニ至ル時ハ又下部ニ來リテ群集スルヲ常トス殊ニ炎熱ノ日ハ根株ニ近ク來リテ群集セリ亦家蠶ト等シク蒸熱ヲ忌ミテ林縁ノ風通シノヨキ場所

ニ來ルノ傾向アリ其二回脱皮迄ハ常ニ蜘蛛ノ巢ノ如キ網巢ヲ作りテ群集スルコト梅毛蟲ノ如シ然レトモ其三齡以上ニ達スル時ハ網巢ヲ作ラスシテ群集シテ黄昏ヨリ出テテ櫟ノ葉ヲ蠶食ス幼蟲ノ糞ハ多ク陽光ノ直射セサル方面ニ存在セリ

食害樹種 櫟林ヲ食ヒ盡クス時ハクリ、ナラ、カシ、ソロ等ニ及フ又マツ、スギ、サハラ、ハンノキ、ケヤキ、エノキ、ホウノキ、コブシ、クハ、ウメ、サクラ、ウツギ、チムノキ、コンズイ、ヌルデ、イヌツゲ、ヤマボウシ、ヒヒラギ、アラダコ等ハ被害林中ニアリシモ之レカ被害ヲ認メス

毒毛ハ體ノ全面ヨリ種々ノ方向ニ簇出シテ其刺撃力甚タ強シ足ハ他物ニ附著スル力ハ可ナリ強シ故ニ突然不意ニ動ス時ハ落下スルコトアリ然レトモ能ク附著セハ容易ニ落下セス幼蟲ノ歩行力ハ強クシテ二三町位ノ他ノ林ニ移動スルハ容易ナルカ如ク二三尺ノ溝アルモ水ナキ時ハ一時彼等ノ歩行ヲ遅カラシムルニ過キス

(四) 蛹ハ八月下旬ニ於テ松毛蟲ニ似テ刺撃力強キ僅カノ短毛アル繭中ニ在リ繭ハ長約一寸七八分直徑七八分アリ色ハ淡灰褐ヲ呈ス蛹ハ長サ約一寸二三分直徑三分アリテ體ニ疎毛ヲ生セリ其結繭所ハ畦、落葉堆積所、庭、板等ノ下ナリ

(五) 蛾ハ十月上旬ヨリ十一月上旬間ニ發生シテ産卵ス大澤村被害林ニ於テ十月十五日ヨリ十一月二日頃マテハ盛ニ夜間飛行セリ(卵ハ翌春五月中旬ヨリ孵化シテ四回ノ脱皮ヲ經テハ八月下旬ニハ蛹トナル)

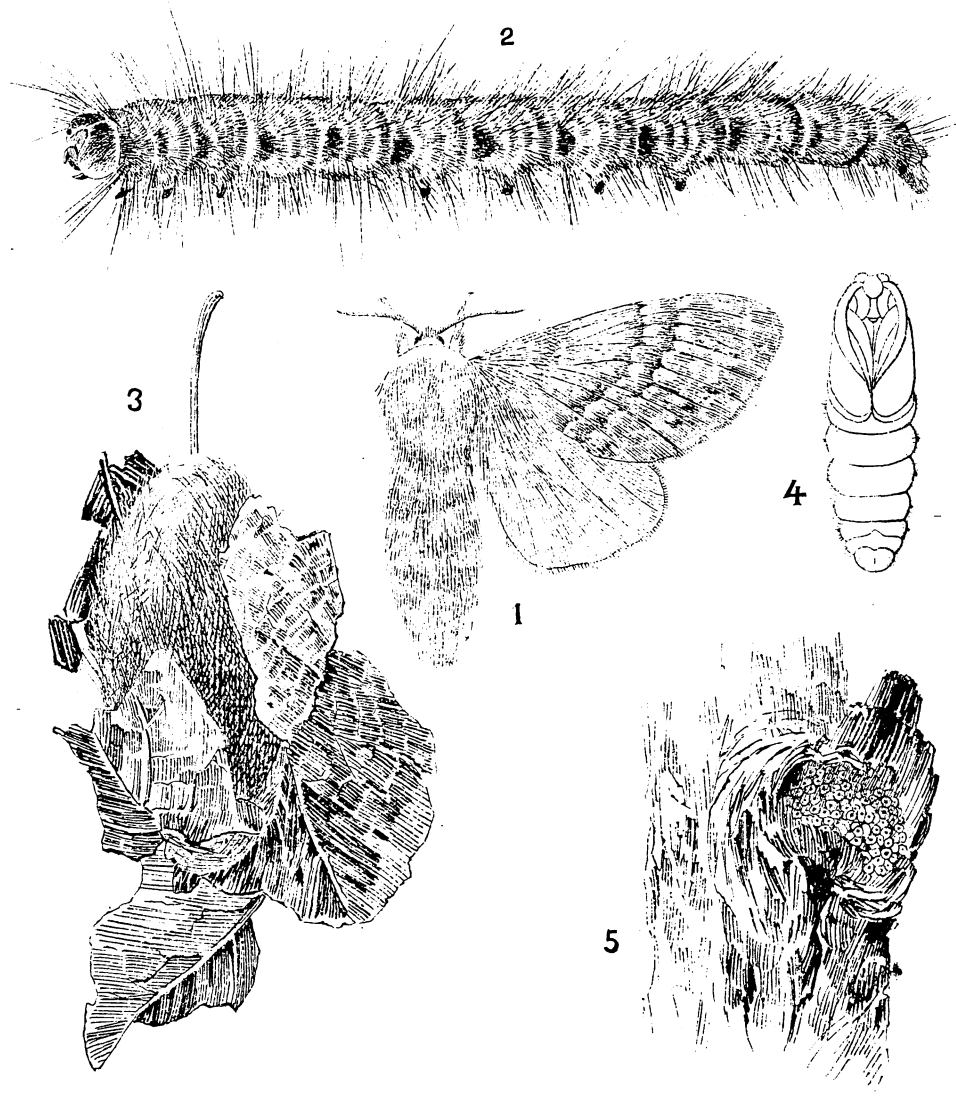
(六) 驅除法 成蟲蛾ハ燈火或ハ燒火ニテ誘殺スルヲ可トス且ツ日中ハ櫟林中ニテ殺ス可シ

産卵ハ多ク枝打ノ凹所及ヒ幹ヨリ枝ノ出テタル下部ニアレハ之ヲ壓殺ス可シ
幼蟲ハ三齡迄ハ網巢ヲ作りテ群棲スルモノニシテ且ツ老成後モ樹幹ニ群棲スルモノナレハ此際燒キ殺スカ或ハ鎌ニテ殺傷スルカ其被害林ノ狀況ニ據リ適宜ノ所置ヲナス可シ蛹ハ乾燥セル畦下或ハ落葉下等ヨリ發見シテ殺ス可シ又被害林ニ庭或ハ板等ヲ置キテ繭ヲ作ラシメテ之ヲ殺スヲ可トス

(七) 有益動物　ホトトギス、マダガスカル、モズ、寄生蜂、寄生蠅等ハ之ヲ害ス殊ニモズハ之ヲ捕殺シテ樹枝ニ貫
キ置クコトアリ

(八) 造林取扱ニ就テ注意ス可キハ常ニ林ノ鬱閉ヲ失ハサルニアリ

櫟毛蟲 (自然大)



(1) 蛾 (雌)

明治三十八年十月二十五日
採集

(2) 幼蟲

同年九月五日採集

(3) 繭

同上

(4) 蛹

同上

(5) 卵

同年十一月六日採集